

介護 QI コンソーシアム ②

2013.12 (公財)ダイヤ高齢社会研究財団 発行

◆目次

参加法人委員会を開催

ミニ講座：尺度を徹底活用！

活用術 1：モニタリングツール

活用術 2：事業所特性の見える化

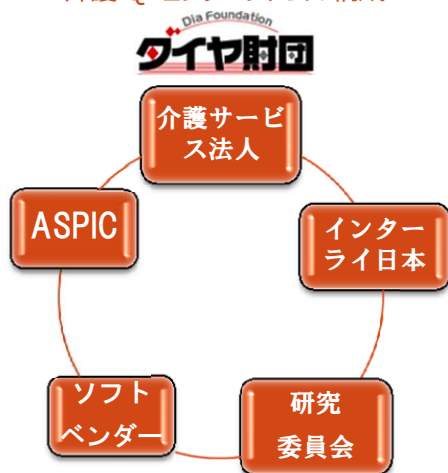
インターライ方式の最新情報

参加法人の委員会を開催(2013.10.11)

10月11日、コンソーシアム参加法人の委員会をダイヤ財団で開催いたしました。9法人から15名の方が出席され、自己紹介に始まり、アセスメントデータの解析報告、クラウドサービス活用方法の説明、コーヒータイムを交えた意見交換を行いました。クラウドサービスについては「タブレット端末では2画面スクロールにできると使い易い」や「チェック後に色が変わっていると入力の進み具合がすぐ分かる」等の改善要望がありました。また、意見交換では事業所内での研修内容や、管理者としての関与の方法など、継続や定着に向けた各法人の取組みが情報交換されました。インターライ方式の導入が進んでいる法人からは「事例検討を中心としたグループワークが有効」や「アセスメントを始めてみれば問題や方向性などが出て次に進める」などのアドバイスがあり、新規加入の出席者が深くうなづく場面も見られました。委員会の最後には、アセスメント定着の目標時期をそれぞれの法人が宣言して、盛況の内に会を終了しました。ご多忙のなか、ご参加いただきました皆様に御礼申し上げます。

【阿部詠子：ダイヤ財団 研究員】

介護 QI コンソーシアムの構成



介護 QI コンソーシアムに関する お問い合わせ先

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団
新宿区新宿 1-34-5 直田ビル 3 階
03-5919-3174 (担当:阿部・五十嵐)
Eメール: qi@dia.or.jp
公式サイト: <http://dia.or.jp/>



参加法人：(医) 鉄蕉会 亀田総合病院《千葉県》・(株)ラックコーポレーション《東京都》・(株)日本パムコ《千葉県》・(株)ビジュアルビジョン《埼玉県》・(社福) こうほうえん《鳥取県》・(社福) 永寿福祉会《大阪府》・(医) 永広会《大阪府》・(株) ケアウェル《福岡県》・(株)アスパル《福岡県》

図 1 ソフトに自動表示される尺度 (インターライクラウドサービス)

BMI	18.4
うつ評価尺度 : DRS	1点
認知機能尺度 : CPS	3 中程度の障害が
日常生活自立段階 : ADL-H	5 最大援助
痛み評価尺度 : PAIN	0:痛みなし

表 1 要介護度が不変だった 754 人の各尺度の変化 (754 人)

尺度(階級)	改善	不変	悪化
DRS(15 段階)	3%	91%	6%
CPS(7 段階)	4%	89%	7%
ADL-H(7 段階)	5%	89%	6%

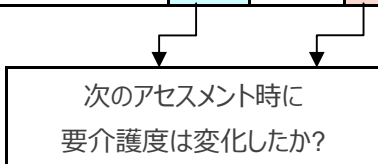


表 2【前回尺度が改善の人】

尺度	要介護度が軽度化の割合	オッズ [※]
DRS	24%	2.7 倍
CPS	24%	1.6 倍
ADL-H	35%	4.4 倍
1 つ以上	28%	4.1 倍

表 3【前回尺度が悪化の人】

尺度	要介護度が重度化の割合	オッズ [※]
DRS	19%	1.2 倍
CPS	19%	1.1 倍
ADL-H	32%	3.4 倍
1 つ以上	22%	2.1 倍

※オッズ：尺度が不変だった人に比べて何倍の確率で改善や悪化したかを表す

ミニ講座：尺度を徹底活用しよう！

インターライ方式のアセスメントには、利用者の状態像を段階的に表す尺度 (Scales)が複数用意されています。

これら尺度は手計算しなくても、クラウドサービス^{*1}にアセスメントデータを入力すれば、利用者のプロフィール画面【アセスメント総合】に自動表示されます(図 1)。

BMI (Body Mass Index)は省略しますが、各尺度の概要は以下の通りです。なお、使用するアセスメント項目などの詳細は、公式マニュアル^{*2}に掲載されています。

☆DRS (Depression Rating Scale:ディーアールエス)

気分に関する 7 つのアセスメント項目から算出する、うつの評価尺度(0~15 点)。3 点以上の場合、うつに関する問題を抱えている可能性がある。

☆CPS(Cognitive Performance Scale:シーピーエス)

認知機能を評価する 7 段階の尺度。この段階は代表的な認知機能尺度の MMSE(Mini-Mental State Examination) の平均得点と高い相関がある。

☆ADL-H (Activities of Daily Living Self-Performance Hierarchy Scale)

ADL の機能低下のプロセスに基づき設定された 7 段階の尺度。この段階が変化した場合、利用者に有意な状況変化が起こったと解釈することができる。

☆PS(Pain Score : ペインスコア)

痛みの程度をその頻度と強さの組み合わせから算出する 5 段階の尺度。

活用術 ① :モニタリングツール

要介護状態の改善や悪化防止には、利用者の状態変化を出来るだけ早い段階で把握し、その支援内容を随時修正していくことが大切です。インターライの尺度 (Scales)は、数値によって定量的に変化を把握できるため、モニタリングに最適です。

ここで、コンソーシアム参加法人のアセスメントデータを用いた分析を紹介します。対象は、アセスメントデータが 2 回以上ある要介護 1~5 の利用者 1,050 人のうち、前回と要介護度が同じ 754 人(72%)です。まず、この要介護度では変化のない 754 人の尺度を前回と確認した結果、各尺度ともに 1 割程度の利用者の段階が変動していました(表 1 DRS : 9%, CPS : 11%,ADL-H : 11%)。また変動したのは、それぞれ異なる利用者でした。つまり、これら尺度は要介護度よりも、広範かつ精緻に利用者の状態変化を把握できることを表しています。また、要介護度が重い利用者でも改善方向への段階が変動しているケースも見られており、改善と悪化の両方向への気づきを与えてくれる点が重要です。

図 2 利用者の要介護度の分布

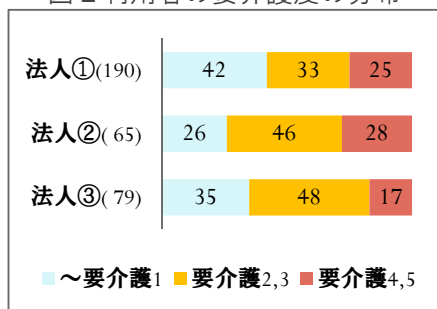


図 3 利用者の ADL の分布

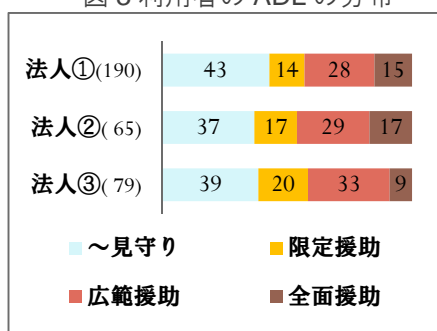


図 4 利用者の認知機能(CPS)の分布

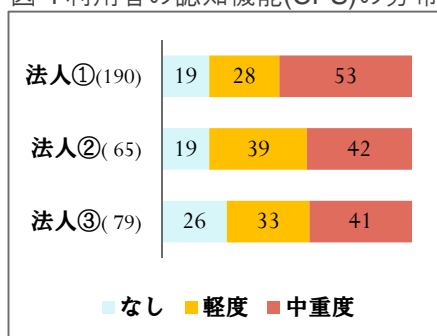
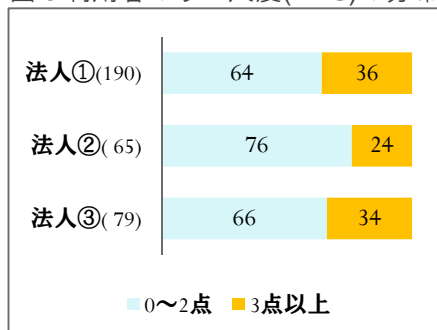


図 5 利用者のうつ尺度(DRS)の分布



※()内は人数

次に、こうしたアセスメント情報から得られる尺度が、その後の「要介護度」の変化を予測するかどうかを検証しました。その結果、3つの尺度の1つでも改善していたグループは、不変・悪化のグループに比べて4.1倍の確率(オッズ比)で、その後の要介護度が軽度化していました(表2)。尺度別ではADL-H 4.4倍とDRSは2.7倍と高く、CPSは統計には有意とは言えませんが、1.6倍でした。もうひとつの要介護度の重度化に対する予測では、3尺度の1つでも悪化していたグループは、やはり2.1倍の確率で重度化しています。

したがって、インターライ方式のアセスメントデータから得られる尺度をモニタリングツールとすることで、より早いタイミングで利用者の状態変化を把握することが可能となり、要介護度の改善・維持への効果的な介入につながることを期待できます。

活用術 ② : 事業所特性の見える化

自らの事業所の利用者の構成を表す際に平均要介護がよく用いられます。例えば「うちの施設は、平均要介護が3.95で重度者が多い方だ」という具合に。

インターライ方式の尺度(Scales)は、より多面的な情報を管理者に提供し、事業所の特徴を見える化することに役立ちます。事例として、コンソーシアム参加の3法人の結果を紹介します。まず、要介護度の比較では法人②が最も中重度者が多いことがわかります(図2)。次に、ADLスコアで比較したところ、要介護度とはほぼ同様の結果でした(図3)。これは、要介護認定基準がADL中心で設計されていることから、当然かも知れません。ところが、認知機能障害の程度を表すCPSで比較すると、要介護度が低い利用者が多い法人①で、認知機能の中重度障害者が最も多くなっていました(図4)。さらに、うつ尺度においては、法人②が最もうつの問題を抱える人が少ないことも明らかになりました(図5)。

このように、尺度からは要介護度では得られない事業所の特徴が浮かび上がってきます。さらに重要なのは、他法人や事業所との比較だけでなく、尺度の結果を継続的に把握して事業所のニーズの変化に気づくことでしょう。例えば、「うつ」利用者の増加に合わせた研修の開催など、効果的な質の向上に結びつけることもできます。

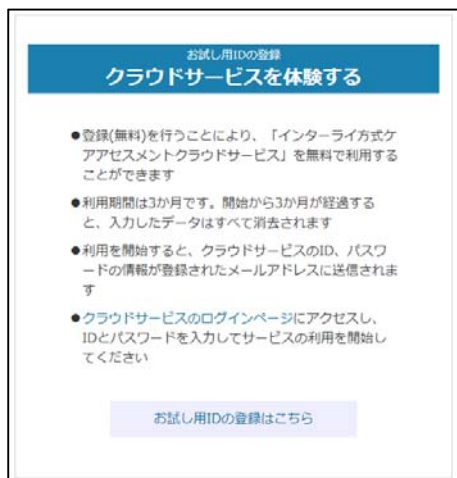
【石橋智昭：ダイヤ財団 研究部長／インターライ日本 理事】

※1 インターライ クラウドサービス <http://www.aspicjapan.org/interrai/>

※2『インターライ方式ケアアセスメント[居宅・施設・高齢者住宅]』医学書院

インターライ方式の最新情報

図 6 体験用 ID の説明画面

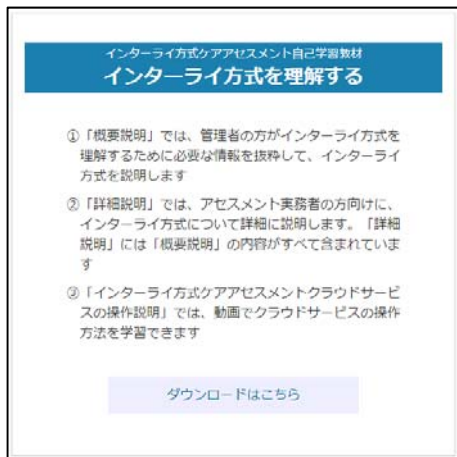


体験用 ID の提供がスタート！

インターライ方式の公認システム「**インターライ方式 ケアアセスメント クラウドサービス**」が無料体験できるようになりました。インターライ日本のホームページで簡単な登録を済ませると、3 か月間利用できる ID とパスワードも入手できます(図 6)。

体験版は試用期間を過ぎると入力データは消去されますが、利用できる機能は有料版と全く同じで、CAP の選定やケアプラン表の作成はもちろん、前頁で紹介した Scales も表示できます。居宅版・高齢者住宅版・施設版すべてが 1 つの ID で利用できますので、事業所での導入検討や個人での体験にぜひご利用ください。

図 7 自己学習教材のダウンロード画面



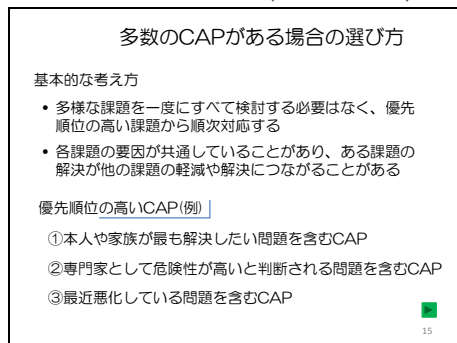
インターライ日本 ホームページ <http://interrai.jp/>

問合せメール: info@interrai.jp Tel: 080-8748-0009

お待たせしました：自己学習教材も同時公開します

ユーザーから要望の高かった、インターライ方式の自己学習教材がいよいよ提供開始されます。教材は①概要説明②詳細説明③操作説明の 3 種類で構成されています(図 7)。①は管理者向けにインターライの特徴をコンパクトにまとめた内容、②は実務者向けとして①に加えてケアプラン作成への活用ポイントを解説(図 8-9)、③はクラウドシステムの操作方法を動画で説明しています。

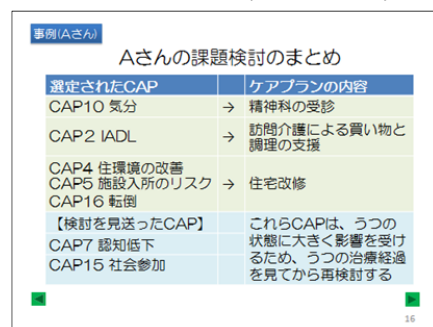
図 8 教材内容の例 (詳細説明編)



自己学習教材も体験用 ID と同様に、公式ホームページで提供しています。こちらは、登録なしで無料でダウンロードできます。皆様のアクセスをお待ちしています。

(以上はインターライ日本事務局提供)

図 9 教材内容の例 (詳細説明編)



介護 QI 通信 通巻:第 2 号 発行日:2013 年 12 月 2 日

発行：公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団

TEL:03(5919)3172 FAX:03(5919)1641 E-mail: qi@dia.or.jp

